Ｋ－ＪＥＴの高速艇で住民を大阪へ運ぶ

神戸航空旅客ターミナル株式会社
海上アクセス株式会社

1　地震発生時の状況

地震発生時、ターミナルには午前６時の関西空港行きのシャトル便に乗るため、４～５人の乗客がいた。地震と同時に館内は停電したが、自家発電設備が起動したため照明は確保できた。乗客の他にシャトル便の乗務員も数名いたが、人数も比較的少なかったためにパニックになるようなことは無かった。

当時、防災センターには警備員が２名と設備担当者が１名が勤務していた。水道は午前６時頃から水圧が低下し始め、午前７時５０分頃には給水不能となった。同時に高架水槽の減水警報が発報した。

午前８時頃、北側駐車場付近でガスの臭いがしたため、設備担当者はガス本管引込み元バルブを閉止した。自家発電設備は空冷式だったので順調に運転していた。午前８時２９分に全館復電し、自家発電設備は自動停止したが、午前１０時２３分には再び全館が停電になったため、自家発電設備が再度起動した。

午前８時頃に社員が自主的に参集した。事務所は机、ロッカーなどが散乱していたが、社員が最初に心配したのはＫ－ＪＥＴの高速艇の燃料である。当初はポートアイランドへのアクセスの状況は悪かったが、１９日からは給油が可能となった。午後５時頃に自家発電設備の燃料を節約するために手動により停止した。午後５時１５分全館が復電した。

翌１８日に、設備担当者は全館をくまなく点検して回った。周辺地盤の陥没、亀裂、乗船室の天井照明器具の脱落、消火器の噴射、屋内消火栓の破損などの被害を確認した。

ターミナルから外部へは、光ファイバーにより電話連絡できたが、外部からターミナルへの電話連絡は困難であった。トイレの水は海水を利用していたが、１９日には簡易トイレを手配し、配置した。

2　Ｋ－ＪＥＴの運行状況

地震により、高速船に損傷がないかどうか入念にチェックが行われた。異常がないため、午前６時の第１便が遅れて午前９時２５分に出航した。乗客は１４人であった。その後、午前１１時２５分の第２便に３人が乗船した。当日の出航は地震のため、この２便のみであった。

翌１８日は１便のみであったが、ポートアイランドのホテルから帰る人や、ポートアイランドから大阪方面へ避難する住民、生活物資を買いに行く住民等からの要望もあり、１９日には４往復、

２０日には７往復運行した。大阪から帰る住民は食料、日用品などをたくさん手に抱えていた。

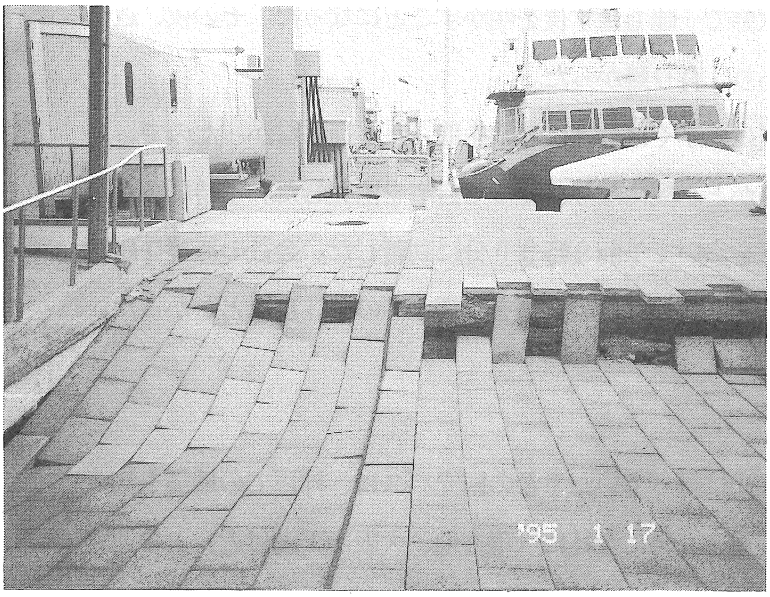
また、１月２４日からは関西国際空港だけでなく、大阪市天保山方面にも就航させ、住民のために利便を図った。

3　教　訓

(1)　自家発電設備が空冷式であったので有効に作動した。

(2)　震災後に関西国際空港の他に天保山へも臨時就航するなど、ポートアイランドの住民及び観光客に対する支援活動を実施した。

(3)　ガス管の元バルブの停止活動など、設備担当者、警備員が適切に行動している。



ターミナル東側（浮き桟橋付近）

地震による岸壁の流出などにより、道路表面は隆起、陥没している他、ブリッジは使用不能となっている。

ターミナル東側（ブリッジ下部付近）